令和６年度　授業改善推進プラン

担当教科（　　国語　　）　学年（　１　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

アンケート内容にある「『わかった』『できた』と感じる機会があり、分かりやすい」との質問について、「当てはまる」が７５％、「どちらかといえば当てはまる」が２５％で、両方を合わせると１００％となり概ね満足できるものであった。それに対し、「『学ぶ楽しさ』を感じる。」との質問については、「当てはまる」が６１％、「どちらかといえば当てはまる」が３３％、「当てはまらない」が６％であり、授業が楽しいと感じている生徒は９４％、楽しいと感じていない生徒は６％存在する結果となった。このことから、授業の理解度は高いもののそれに対し、授業に楽しさを感じている生徒の割合が若干ではあるが少ないことが分かった。

授業等の課題分析

授業の理解度の割合（高い）と楽しさの割合（低い）との間に差があることから、楽しさの割合を増やすことで授業への集中度が増し、積極的に授業に参加する生徒が増えると考えられる。積極的に授業へ参加する生徒が増えればその分、授業の理解度もさらに高まっていくものと考える。

目指す授業

「学ぶ楽しさ」を実感させる授業。

授業改善のための具体的な方策

・授業内容と生徒自身の身のまわりのこととを結びつけ、国語の授業がより身近なものであることを理解させる。例えば、普段使っている言葉が歌舞伎から生まれた言葉であることを知り、さらにその由来を知ることで、その言葉の意味（昔の生活習慣などの歴史や文化）を深く理解し、「なるほど」という「分かる」ことへの楽しさを実感させる。
・教員の実体験に基づいた内容を授業内容と結び付けることで、授業に対する関心を高める。
・授業の振り返りを丁寧に行うことで、「わかった」という意識を高め、「わかる」楽しさを実感させる。

令和６年度　授業改善推進プラン

担当教科（　　国語　　）　学年（　２　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

アンケート内容にある「『わかった』『できた』と感じる機会があり、分かりやすい」との質問について、「当てはまる」が５７％、「どちらかといえば当てはまる」が３４％で、「どちらかといえば当てはまらない」が９％であった。「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を両方合わせると９１％ととなり、概ね満足できる結果ではあるが、他の質問項目と比較すると、授業に対する前向きな評価である「当てはまる」が一番低いため、改善すべき課題として取り上げた。

授業等の課題分析

授業において、「物語」や「説明的文章」などは生徒たちの関心も高く、授業への集中力も高い。よって、「わかった」「できた」と感じる機会は多いものと考えられる。一方で、「文法」や「漢字」などは、暗記や論理的に複雑になることが多くなることに加え、身近なものと関連付けて考えることが難しく、生徒たちの関心も低い。このことにより、生徒たちの関心や、授業への集中力が低下し、「『わかった』『できた』」と感じる機会の前向きな評価が他の項目と比べ、減少したものと考えられる。
生徒の主体的な学習に取り組む態度を高めることで、「『わかった』『できた』と感じる機会があり、分かりやすい」の前向きな評価は上がるのではないかと考える。

目指す授業

・授業内容の魅力を高める授業。

授業改善のための具体的な方策

・文法のような論理的に複雑な内容は、パズルのピースを組み上げるような集中力を引き出す授業を展開する。今までに習った知識を使うことで、やや複雑な文法も、「ここで習ったことが役立つのか」と思わせる。例えば、「見れる」に見られる「ら抜き言葉」は五段活用で習った知識を使い、可能動詞と助動詞（れる・られる）と関連付けて教える。このことには、以前習った知識とともに日本語の歴史も必要となるため、その歴史も含めて指導する。「漢字」についても、その成り立ちも含めて指導する内容であるため、歴史という観点からも指導する。このように、国語以外の観点からも指導を行うことで、授業内容の魅力を高めていく。

令和６年度　授業改善推進プラン

担当教科（　　国語　　）　学年（　３　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

アンケート内容にある、「国語の授業に積極的に取り組んでいる」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」が８７％で、概ね満足できる結果ではあるが、「どちらかといえば当てはまらない」が１３％であった。また、「国語の授業では、単元の最後に学習内容を振り返る場面がある」では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」が８７％で、概ね満足できる結果ではあるが、「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」が１３％であった。これら２項目について、他の質問項目と比較すると、授業に対する消極的な評価が多いため、改善すべき課題として取り上げた。

授業等の課題分析

・受験生となり、学習意欲は昨年度と比べると段違いに上がってきている。授業内容についても昨年度と比べると理解度も高く、大きな変更を要する状況ではないが、授業により積極的に取り組む工夫を止めてはならない。また、授業の最後に学習内容を振り返る時間が少ないため、学習内容に対する自分の課題に気付きにくい傾向にあると思われる。

目指す授業

・身に付けた新しい知識・技能を振り返り、学習のまとめを行う授業。
・生徒が積極的に取り組む授業。
・受験を意識しつつ、国語の本質をしっかりと教える授業。

授業改善のための具体的な方策

・授業の最後に必ず学習内容を振り返る時間を設けることで、自らの課題に気付き、次の学習へとつなげていく。
・受験生となり学習意欲は高まってきているので、受験と関連性を持った授業を展開し、授業への積極性を高めていく。
・受験が授業への積極的な取り組みに関連しているが、国語の本質である「自ら問題点を挙げ、その答えを追究する中で、論理的思考を持って自分の考えを広げたり，深めたりすること」、「社会生活と人間関係形成に不可欠な日本語能力を高めること」を忘れずに授業を構成していく。